

全国のシティ読者のおかげで 38万5523円が集まりました

全国のシティリビングネットワークが共同で行っているボランティア活動「シティ OL-AID」。2008年8月下旬～2009年1月上旬に実施した第20回では、38万5523円が集まりました。今回はその回収結果と併せて、私たちが集めた切手などの収益が、どう役立てられているのかを紹介します。

「シティ OL-AID」の仕組み

オフィスで使用済みの切手やプリペイドカードを回収

財団法人ジョイセフへ送付

国連人口基金 (UNFPA) や国際家族計画連盟とも協力しながら、国際協力を行っているNGO (民間公益団体)。開発途上国の人々の健康と幸せ、自立支援、健康教育、環境衛生、母子健康・家族計画などの分野で国際協力を推進

ジョイセフのボランティアが整理

専門業者が使用済み切手やプリペイドカードを引き取り、種類ごとに分類・仕分け

収集家が買い取り

ジョイセフの支援活動資金に

次回の回収は8月14日(金)必着!

第21回「シティ OL-AID」の回収を実施します。これまでに集まった使用済みの切手、プリペイドカード、メータースタンプを、シティ編集部へ郵送するか、直接持参してください。

※直接、編集部へ持ち込む場合は、できるだけ事前に日時を編集部へ電話連絡してください (会社は月～金曜の午前9時30分～午後7時の間をお願いします)

回収物

使用済みの切手、プリペイドカード (社員食堂のカードや、ジムなどのロッカーカードは除く)、メータースタンプ (右写真)



回収するときのポイント

- 切手は消印も入るように切ってください
- 切手とメータースタンプに関しては、日本のものと外国のものを分けてください (プリペイドカードは一緒に可)

あて先 〒102-8515 千代田区紀尾井町3ノ23
シティ編集部「シティ OL-AID」回収係

参加オフィスも随時募集中

ちょっとした心がけでできるボランティア「シティ OL-AID」の参加オフィスは随時募集中。参加希望オフィスには、「シティ OL-AIDシール」を配布。オフィスで不用になった空き箱などに貼り、切手やプリペイドカードを集めてください。※参加の際は必ず会社の承諾を得てください

応募方法など詳細はシティウェブで

PC <http://event.citywave.com/olaid/>

ケータイ <http://mc.citywave.com/olaid/>

2次元コード対応のケータイはこちらから



問い合わせ シティ編集部 ☎03(6703)4420

第20回「シティ OL-AID」回収結果

使用済み切手	※買い取り額	日本切手1100円/1kg、外国切手3000円/1kg
日本切手	305.10kg	→ 33万5610円
外国切手	2.17kg	→ 6510円
使用済みプリペイドカード	8万5006枚	→ 2万9517円
使用済みメータースタンプ		
日本メータースタンプ	21.31kg	→ 1万2786円
外国メータースタンプ	1.10kg	→ 1100円

合計

38万5523円

(2008年8月下旬～2009年1月上旬回収分)

私たちの協力が こんなことに役立てられています!

「シティ OL-AID」の活動で集められたお金は、財団法人ジョイセフを通して、開発途上国の支援に役立てられています。具体的にどんな支援が行われているのか、アフガニスタンでの活動の一部を紹介します。

子どもたちにランドセルや文房具をプレゼント

アフガニスタンの女性の非識字率は80%以上で、小学校に通わない女の子も多いそう。中途退学をしないで通学できれば、予防接種をはじめ、出産に対する知識や意識を高めることができ、母子の健康や安全を守ることにもつながります。そこで、学用品を持っていない子どもでも学校に通う意欲が高まるように、ランドセルや鉛筆などの学用品を寄付しています。日本から届けられたクレヨンや色鉛筆が、子どもたちが絵を描き楽しく学ぶことに役立っています。こういった支援により、子どもの母親たちの厳しい現状に目を向かせ、結果的に教育や健康に対する現地の人の意識が高まるようになりまし



写真上・青空教室の様子。寄付したランドセルは、机としても活躍! 学校を中心に、寄生虫予防の検査や予防なども実施しています

写真左・ランドセルや文房具の寄付をTOKYO FMで呼びかけたところ、たくさんの協力を得ることができたそう。7月には、寄付した鉛筆やクレヨンで描いたアフガニスタンの子どもたちの絵の展示会が行われました

in アフガニスタン

カレゼ・カビル診療所での活動

アフガニスタンは、妊産婦死亡率、乳児死亡率ともに世界で2番目に高い国です。1人でも多くのお母さんと赤ちゃんを救うため、ジョイセフは2002年から支援していて、その中心となるのが「カレゼ・カビル診療所」。病院のない地域なので、妊婦の産前健診や乳幼児の予防接種など以外に、そのほかのあらゆる診療も行っています。



妊婦の産前健診の様子。診療所ができるまでは、何時間もかけて遠方の病院まで行かなければならなかったそう

保健ボランティアの支援

カレゼ・カビル診療所まで来られない遠い村人のために、保健ボランティアが村々を巡回しています。また、現地の保健ボランティアに、妊産婦の死亡の原因は不衛生な環境での出産だということを理解してもらい、衛生的な道具を使った出産方法を指導するなどの研修も行っています。これらのボランティアが巡回するために、日本から再生自転車も寄贈しています。



保健ボランティアや伝統的助産師への指導で、きれいなタオルや使い捨てのカミソリなど、衛生的な道具で出産助産が行われるように。このほか、栄養やビタミンを豊富に取れる果樹を栽培するための農業指導も行っています

全国のシティリビングネットワーク(札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・京都・大阪・福岡)が共同で行っている「シティ OL-AID」。オフィスで不用になった国内外の使用済み切手やプリペイドカードを、アジア・アフリカ・中南米などの開発途上国で国際協力を行っている財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付し、支援活動資金として役立ててもらったボランティア活動です。半年に1度、回収をしていて、2008年8月下旬～2009年1月上旬に実施した第20回の回収では、合計38万5523円が集まりました。協力してくれた全国のみならず、本当にありがとうございます! 今回の回収は8月中旬に実施するので、協力をどうぞよろしくお願ひします。

不
用
な
切
手
や
カ
ー
ド
を
寄
付
私
た
ち
に
も
で
き
る
国
際
貢
献